

特別寄稿 人間万事塞翁が馬

北支部 佐藤 良道

50歳になる直前、激しい頭痛に襲われた。医師からの所見は「偏頭痛」。「念のためMRIで検査しましょう」と言われ、その結果、脳に萎縮が見られ、軽度認知障害MCIになる可能性が高いとの診断を受けた。当時、若年性認知症が話題となっており、お先真っ暗、頭が真白になった。医師に「今後、どう生活したらよいのでしょうか」と問うと、「薬はない、知的活動と適度な運動を心がけ、栄養バランスのよい食事をとってください」との助言をいただいた。その頃から日記をつけ始め、現在では5年日記は6冊目となり、運動は1日1万2千歩を目標とし、昼食はできるだけ外食を避け、愛妻弁当を持参するようになった。

それ以来、目立った症状はなく、無事、定年を迎えることができ、40年にわたるサラリーマン生活に別れを告げ、63歳にして社労士業を創業した。認知症のことはすっかり忘れ、悪戦苦闘しながらも創業6年ほどで顧客が増え業務が軌道に乗ってきた。ところが、70歳ごろから、物忘れ、知っていた漢字が書けない、自宅の2階から1階に何のために降りたのかを忘れてしまう症状が出てきて、20年前のことを思い出す。これではいけないと、認知症の参考書を読んだり、脳科学者の講演に参加したりした。新しいことへ挑戦し、その目標を達成することが認知症予防になるとのことであった。

そこで、一念発起、業務にも役立つ法律を学ぶことにした。もう一度、「大学に入ろう」と決意し、通信教育で中央大学法学部に入学した。ところが、レポート課題を何回出しても不合格。返却されたレポートは、添削で真っ赤に染まっていた。返却される度に動悸を感じ、恐怖症になる始末であった。そんな時、学習会仲間から「みんな同じ思いをしている。」「辞めるのはいつでもできる。」等様々な助言をいただき、再チャレンジすることにした。労働法では演習会に参加し、担当教授から、さすが社労士だとお褒めの言葉をいただき、モチベーションが上がり、そのままの勢いで、本年3月無事卒業式を迎えることができた。

今振り返ると、50歳直前に遭遇した脳検査の不幸が、50歳以降の人生を決定づけたように思われる。社労士は30代で合格したが、50歳からFP1級、販売士1級、DCプランナー1級、特定社労士と資格に挑戦し続けた。本年75歳になるが、毎年新しいことに挑戦し続けている。社労士110番、区の社労士派遣、無料相談員、指定管理事業者モニタリング、臨時労働保険指導員、社会保障教育、業務領域では成年後見、メンタルカウンセリング、障害年金、給与計算、電子申請等。本年の挑戦は東京労働大学を受講修了することだ。

脳検査の結果で最大の不幸になったが、今はその結果のお陰で、顧客へ様々な情報を提供でき、相談にのることができる。また、自身のメンタルは年々若返り、物忘れも減少し、身体も絶好調だ。

不幸だったのが、幸福に転じたのだ。このことは、中国の故事にある「人間万事塞翁が馬」ではないだろうか。



●編集後記●

2年間、城北統括支部広報委員長を務めさせて頂きました。委員会の皆様には大変お世話になりました。後半からのコロナ禍にて委員会の延期や会報発行の延期が続きましたが、今回もどうにか発行出来る運びとなり、ほっとしているところです。自由に行動ができる日々早く戻ることを心から願っております。

(豊島支部 五十嵐三保)

今回、前委員長に教えていただきながら初めて「JHO」の編集に携わり、今までの委員長方のご苦労が身に染みしています。コロナ禍で引継ぎが思うようにならず、前委員長にはご苦労をかけてばかり。広報委員会、役員の皆様ありがとうございます。無事に皆様のお手元に届きほっとしました。今後ともよろしくお願いいたします。

(練馬支部 門脇 智恵)

—城北統括支部広報委員会—

練馬支部／◎門脇 智恵 稲葉 一良 笠原 昭代 加治 直樹
 藤井 靖幸
 北支部／○高木 博之 雨宮 真吾 葛宮 周一 清水 祥子
 増田 英明
 板橋支部／○山崎 早苗 大木美登里 齊藤 広幸 高木一東始
 三原 慶子
 豊島支部／○五十嵐三保 浦上 淳 西野 史朗 柳沢 隆
 山口 靖

◎委員長 ○副委員長

発行所：東京都練馬区早宮3-4-12

TEL:03-3991-2493 FAX:03-3991-2493

かどわき社会保険労務士事務所内

城北統括支部広報委員長 門脇 智恵